

株式会社 藤里開発公社の経営状況について

株式会社藤里開発公社の経営状況について、6月議会定例会で報告したので公表いたします。
令和2年度藤里開発公社部門別損益計算書（R2.4～R3.3）（単位：千円）

科 目	ホ テ ル	健康保養館	加工センター	白神山水 生産販売	本 部	合 計
売 上	50,210	25,693	27,276	62,895	0	166,074
加 工 手 数 料	0	0	11,647	0	0	11,647
指 定 管 理 料	0	20,499	5,382	11,858	0	37,739
売 上 計	50,210	46,192	44,305	74,753	0	215,460
期 首 在 庫	911	431	4,637	5,764	0	11,743
当 期 仕 入	13,810	4,677	12,985	16,487	0	47,959
期 末 在 庫	859	461	3,503	6,170	0	10,993
売 上 原 価	13,862	4,647	14,119	16,081	0	48,709
売 上 総 利 益	36,348	41,545	30,186	58,672	0	166,751
一 般 管 理 費	57,689	44,937	27,888	51,462	11,312	193,288
営 業 利 益	△21,341	△3,392	2,298	7,210	△11,312	△26,537
営 業 外 収 入	2,593	953	1	1,071	2,504	7,122
営 業 外 費 用	0	0	0	7	0	7
税引前当期純利益	△18,748	△2,439	2,299	8,274	△8,808	△19,422

※6月議会定例会で報告した資料を編集して作成しています。

●ホテル（売上高50,210千円、前年度比70.7%、20,789千円減）

新型コロナウイルス感染症の拡大でゴールデンウィークに休業となったこと、県外への移動の自粛などで当ホテルに於いても大きく影響したが、7月からのG o T oトラベルキャンペーン、秋田県プレミアム宿泊券、8月からは藤里町「泊まって応援キャンペーン」などで、上半期のマイナス分をカバーすべく、各種キャンペーンが終了する2月まで宿泊客の獲得に努め、下半期は前年同期を上回る宿泊客の利用がありました。

●健康保養館（売上高25,693千円、前年度比95.1%、1,320千円減）

上半期はホテル同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用が半減し厳しい状況が続き、ゴールデンウィークの観光客や家族連れ、登山、散策シーズンの利用を見込んでいましたが、緊急事態宣言や移動の自粛の影響で大きく落ち込む結果となりました。

下半期の利用は各種キャンペーンの効果もあり徐々に回復しましたが、県内客や近隣客常連客の利用がほとんどで、全体の利用者数を伸ばすまでには至りませんでした。

●加工センター（売上高38,923千円、前年度比113.1%、4,511千円増）

山芋の皮むき事業、ヨモギ加工もほぼ順当に受注できております。

更に毎年課題としていた、野菜の乾燥加工後に発生するロス並びにラムの内臓処理に関しては、新たに取引会社の開拓に結び付ける事ができました。

●白神山水生産販売（売上高62,895千円、前年度比83.1%、12,834千円減）

新型コロナウイルスに翻弄された一年となりましたが、内容としては最大の取引先をはじめ旧販社及び直販部門の不振で、その理由としては大型百貨店等の休業措置や解除後の売場縮小等が大きく影響しました。

<指定管理料について>

開発公社の運営5部門のうち、健康保養館（共同福祉施設を含む）・加工センター・白神山水の館は町有施設であり、町は開発公社と指定管理協定を結び、管理運営を委託しております。健康保養館は、低料金で町民等の健康増進を図るもので、加工センター及び白神山水の館は、特産品開発や資源を活用した地場産業の振興を目的として運営されております。

これらの施設の維持管理には、保守料や維持修繕費、光熱水費や管理のための人件費が掛かるため、町では、施設の健全な運営が図られるよう、こうした維持管理費に要する経費の1／2相当と人件費の一部について、一定のルールにより指定管理料として支払っております。

こうしたことから、指定管理料は赤字・黒字で増減するものではなく、年度当初に契約した協定に定める金額を基準として支払いしており、計画目標により売上げを伸ばして黒字化を目指すこととしています。